

## 4. 被爆者検診カルテの記述情報

### 1. はじめに

我々は、平成3年度（1991年度）より過去の検診カルテの記述情報を光ディスクに入力し保存することを始めた。平成4年度までに約20万件を入力することができた。我々は検診カルテを光ディスクにより保存するにあたって、光ディスクで保存する情報がすでに被爆者データベースにある情報と重複しないよう被爆者データベースにない検診カルテの必要な部分のみを保存することを方針とした。我々は光ディスクに保存した被爆者の検診カルテの記述情報を解析し、医学的価値を検討した。

### 2. 対象と方法

昭和50年（1975年）10月に実施された被爆者検診精密検査の検診カルテを対象とした。その検診カルテは1,072件あり、そのうち記述情報があった検診カルテは622件（58%）であった（図1）。記述情報および被爆者手帳番号、性別、生年月日、検診カルテ番号のデータファイルを作成し、記述内容の分類を行った。

### 3. 結果

622件の検診カルテには11,048個の記述情報があった。そのうち1,874個（17%）が症状に関する情報（「症状あり」）であり、9,174個（83%）が症状がないという情報（「症状なし」）であった（図2）。症状ありの記述情報

の症状を表1に示す。症状は314種類あり多様であった。高血圧（154個）、頭痛（97個）、めまい（89個）、下肢浮腫（78個）、食欲不振（63個）、全身倦怠感（59個）、肝疾患（57個）、貧血（56個）、呼吸器疾患（54個）、不眠（50個）、虫垂炎（50個）などの症状の頻度が多かった。このうち、頭痛、めまい、食欲不振、全身倦怠感、不眠は自覚的な症状である。これらの症状と検診の検査値との関連は興味深い。

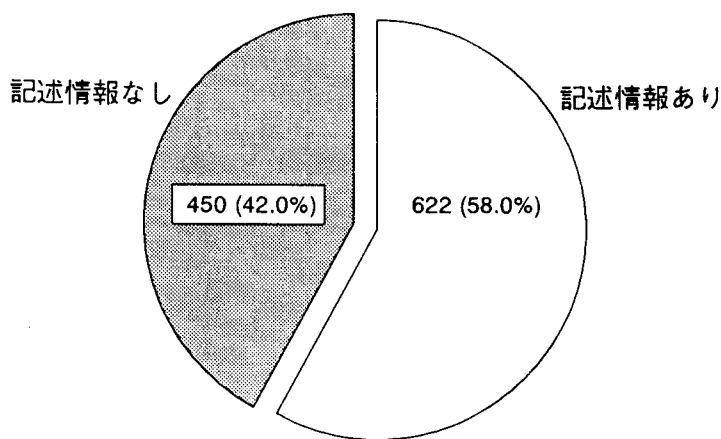
### 4. まとめ

被爆者検診カルテの記述情報には、頭痛、めまい、食欲不振、全身倦怠感、不眠などの自覚的な情報が含まれている。これは検診の検査値の情報とは異なる医学的情報である。したがって、光ディスクで保存している情報と被爆者データベースに保存している検診の検査値との関連を解析することは意義がある。この記述情報を患者の医療歴としてだけでなく医学研究にも利用しやすくするためには、検診カルテの様式や記載方法などを工夫することが必要である。すなわち、症状を分類し、コード化することにより、情報を整理して解析しやすいようにすることである。

[本研究は第34回原子爆弾後障害研究会（平成5年6月6日、広島）において発表した。]

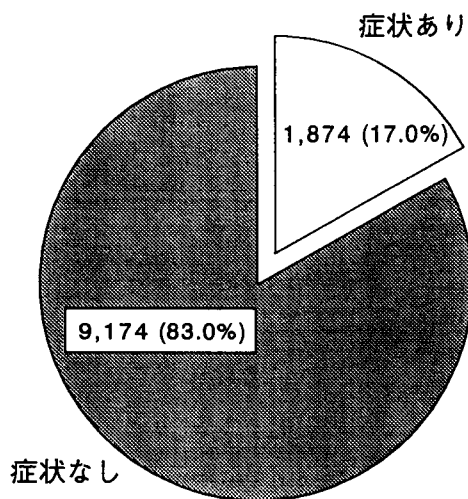
表1. 記述情報の症状

症 状	数
高血圧	154
頭痛	97
めまい	89
下肢浮腫	78
食欲不振	63
全身倦怠感	59
肝疾患	57
貧血	56
呼吸器疾患	54
不眠	50
虫垂炎	50
胃疾患	43
心悸亢進	40
腎疾患	34
肩こり	26
嘔気	23
心疾患	22
腰痛	21
咳	20
便秘	19
心窩部痛	19
手術の痕	19
肝・触知	18
胸膜炎症	18
神経痛	18
扁桃腺の腫れ	17
喀痰	17
糖尿病	17
子宮筋腫	17
立ちくらみ	16
膨満感	15
関節痛	14
膝蓋腱反射・低下	12
胆のう症	11
顔面・蒼白	11
心濁音界の拡大	11
十二指腸潰瘍	11
腸疾患	10
口渇感	10
その他(275種類)	537
合計(314種類)	1,874



カルテ 合計 1,072件

図1. 検診カルテの記述情報の有無



記述情報 合計 11,048個

図2. 記述情報の分類